



令和元年度学校評価アンケート結果

福島県立会津第二高等学校

◎評価段階 4:そう思う、3:まあまあそう思う、2:あまりそう思わない、1:そう思わない

No.	評価項目	令和元年度の評価平均			平成30年度の評価平均			昨年度との比較			R01年度の教員とのギャップ		
		生徒		教員	生徒		教員	R01年度-H30年度			生徒	保護者	
		回答率%						生徒	保護者	教員	生徒	保護者	
1	分かりやすい授業		3.4	3.3	3.8	3.2	3.2	3.9	0.2	0.1	-0.1	-0.4	-0.5
2	学習事項定着の指導		3.2	3.3	3.6	3.2	3.1	3.8	0	0.2	-0.2	-0.4	-0.3
3	進路達成のための支援（添削・面接・小論文指導）		3.4	3.4	3.8	3.1	3.1	3.6	0.3	0.3	0.2	-0.4	-0.4
4	行事や部活を通しての円滑な人間関係の育成		3.2	3.6	3.7	3.0	3.1	3.4	0.2	0.5	0.3	-0.5	-0.1
5	学習や生活上の悩み・相談への対応		3.2	3.3	3.9	3.1	3.2	3.7	0.1	0.1	0.2	-0.7	-0.6
6	進路意識の高揚		3.1	3.3	3.6	3.0	3.2	3.4	0.1	0.1	0.2	-0.5	-0.3
7	進路情報の提供		3.1	3.4	3.6	3.1	3.3	3.4	0	0.1	0.2	-0.5	-0.2
8	進路相談の充実		3.4	3.3	3.8	3.0	3.1	3.8	0.4	0.2	0	-0.4	-0.5
9	規則的生活習慣の確立		3.3	3.4	3.2	3.1	3.2	3.3	0.2	0.2	-0.1	0.1	0.2
10	自己理解・自己実現の高揚（生活体験発表）		3.3	3.6	3.7	3.2	3.3	3.6	0.1	0.3	0.1	-0.4	-0.1
11	各種安全教育の効果		3.4	3.5	3.7	3.3	3.3	3.6	0.1	0.2	0.1	-0.3	-0.2
12	スクールカウンセラーの活用		3.2	3.4	3.7	3.2	3.1	3.8	0	0.3	-0.1	-0.5	-0.3
13	心と体の健康増進対策		3.1	3.3	3.7	3.0	3.2	3.6	0.1	0.1	0.1	-0.6	-0.4
14	ボランティア、地域貢献の効果		3.5	3.7	3.7	3.5	3.6	3.7	0	0.1	0	-0.2	0
15	給食指導・給食内容		3.7	3.6	3.6	3.4	3.3	3.8	0.3	0.3	-0.2	0.1	0
16	学校の情報発信		3.1	3.4	3.7	2.8	3.1	3.8	0.3	0.3	-0.1	-0.6	-0.3
	平均		3.3	3.4	3.7	3.1	3.2	3.6	0.2	0.2	0.1	-0.4	-0.3

●アンケート結果を比較しての分析・反省

*生徒のアンケートと教員によるものの差違は、立場の相違によるものであり、サンプル数の狭小さによる誤差の範囲にとどまるといえる。局所的にはであるが、両者において比較的、評価の高いものとしては「給食」についてのものがある。また差違の比較的大きいものとしては「悩み」についての相談についてであるが、平均年齢の高い本校職員と生徒の間に乖離があることは、至極、当然の結果ということもできる。

*教員側の評価の平均が3.7であるのに対し、生徒の平均は3.2である。その中でも注目すべきは、「5悩みがあるとき相談しやすい環境が整っているか」という項目である。教員の平均は3.9と全体を通して1位の数値であるが、生徒の平均は3.2であり最下位に近く、保護者では3.1と最下位である。日々相談を受けている側の教員は努力を自負できているが、教員側が広げた手よりこぼれている生徒がいると考えられる。

*給食に関しては、少しでも利用しやすくなるようにとの考えから、時間を従来より10分繰り下げたり、食堂のテーブルの配置を工夫するなどしたことも奏功したかもしれない。情報発信については、『オーロラ（学校だより）』の発行が予定どおりにできず、反省点である。その他の『進路だより』、『給食だより』、『レーゼ・ザール』、『PTA会報』、『保健だより』などは確実に発行されていたが、保護者まで届く工夫を継続していくことが必要。